

令和2年度 東京都小学校社会科研究会 研究発表会 挨拶

【会長挨拶】

東京都小学校社会科研究会
会 長 吉藤 玲子

みなさん、こんにちは。本会の会長を務めております台東区立忍岡小学校長の吉藤玲子です。

本来であれば、2月19日（金）江戸川区立本一色小学校にて都小社研一年間のまとめとしての研究発表会を多くの来賓や本会顧問・OBの方々をお招きして開催し、会場で挨拶をさせていただく予定でした。しかしながら、緊急事態宣言が延長され、多くの人々が一同に会することが難しくなり、残念ながら研究発表会は中止、紙上発表とさせていただくことになりました。

今年度、コロナ禍ではありましたが、都小社研では、研究の歩みを止めることなく、計8回の授業研究を実施しました。研究主題を「社会とつながり未来を創る子供の育成～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～」と定め、研究を推進して参りました。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた課題はまだ山積みです。それでも本会の先生方は、年間を通して、オンラインを活用し、仲間と協働して、新しい学習を創造する意欲を高めてきています。

今年度、地区委員会についても2回開催し、各地区から多くの参加者が集いました。「オール東京」のスローガンを引き継ぎ、社会科学習の進め方や副読本の作成の仕方などについての情報共有を行っています。また、新学習指導要領全面実施の本年度、4年生の副読本『わたしたちの東京都』も全面改訂版が発刊されました。東京都版指導計画（第四次）に関しては、評価も含め各小単元を4ページ構成にしたものを現在改訂作業中です。

次期全小社研東京大会まで、あと2年半余りとなりました。大会に向けての準備委員会も立ち上がり、今後研究理論の具現化や4会場ごとの打ち合わせ等も進めていく予定です。

都小社研では、研究同人を募集しております。みなさん、都小社研にぜひお入りください。一緒に社会科の授業づくりを楽しみ、東京都の社会科学習の質の向上をはかっていかれればと切に願っています。

文部科学省初等中等教育局教科調査官小倉勝登先生には、この会の紙上発表に向けての寄稿をいただきました。この会を支えていただきました江戸川区教育委員会の皆様、講師の皆様、都小社顧問・OBの皆様、研究推進委員の皆様、そして何よりも方法を変えてご努力くださった会場校である江戸川区立本一色小学校の和田敏郎校長先生をはじめ教職員の皆様に心より感謝いたします。

今後も東京都及び日本の小学校の社会科教育の充実と発展に力を尽くしていくことをお誓い申し上げ私の挨拶とさせていただきます。

【会場校長挨拶】

江戸川区立本一色小学校
校 長 和田 敏郎

本一色小学校で令和2年度の都小社研研究発表会を開催すると決まった時は、まだ国内の新型コロナウイルス感染症の患者はいませんでした。その後、急速に感染拡大する中で、まず、参観者を昨年度の半数に抑えることにしました。さらに児童と参観者を分けるために授業は動画視聴としました。多くの方々に授業をリアルで見ていただくことが使命だと考えていた私にとって、大変残念なことでしたが、この方法で準備をしてきました。今回、結果的には紙上発表という形になり、参観予定の方々、応援して下さった方々には大変申し訳なく思います。また、会長の吉藤玲子校長先生をはじめ都小社研の皆様も江戸川区教育委員会の皆様も直前まで、開催の方向で努力して下さったことに本当に感謝しています。

各学年の研究推進委員の皆様は制約の中で、大変熱心に研究に打ち込んでいました。特別な年でしたが、研究の歩みは決して止まっていません。「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く。」という言葉があります。内容的には力強い根を伸ばす研究ができたと信じています。